



上：「藝大生へ卒業修了作品インタビュー」  
とびラー（アート・コミュニケーター）が藝大へ訪問。  
アトリエで卒業・修了する学生にインタビューを行なった。  
インタビュー記事は、東京藝術大学卒業修了作品展のHPに掲載されている。

下：「見学会（対話による鑑賞会）」  
東京藝術大学卒業修了作品展の会場にて、  
とびラーがファシリテータとなり、来館者と一緒に対話による鑑賞を行なった。



右：「とびらステーション」  
年に数回、100名を超えるとびラーが全員集合する総会。  
8月とはとびらプロジェクトの藝大代表教員である日比野克彦教授と共に、  
今後の活動を考えた。

左：「障がいのある方のための特別鑑賞会」  
障がいのある方のための、美術館の休室日を利用した特別鑑賞会。  
とびラーは会場の運営や鑑賞をサポートしている。

TOPICS OF  
FINE ARTS

2013.08-2014.01

# 美旬



右上：「とびらボードでGO!」

東京都美術館の特別展で子供たちに磁気ボードを貸出し、お絵描きをしてもらったプログラム。  
とびラーのアイデアにより、磁気ボードに描かれた絵はポストカードのぬりえにしてプレゼントした。

左上：「あなたも真珠の耳飾りの少女プロジェクト」

とびラーのアイデアで生まれたプロジェクト。  
美術館来館者の方が、フェルメールの作品になりきって写真撮影を楽しんだ。

下：「紙芝居プロジェクト」

開催中の展覧会を題材に、ストーリーも絵もすべてとびラーオリジナルの紙芝居を上演している。

## 1

### とびらプロジェクト

(東京都美術館 × 東京藝術大学アート・コミュニティ形成事業)

東京藝術大学と東京都美術館が連携し、アートを介したコミュニティの形成を目指すプロジェクトが平成二十四年よりスタートした。広く一般から募集した百名を超えるアート・コミュニティ(愛称「とびラー」)が、人と作品・人と人と場所をつなぐ役割を担い、東京都美術館を拠点に活動中である。とびラーの活動はボランティアだが、学芸員や大学教員のサポートではない。新しい暮らしの形、アート・コミュニティをつくりあげるプレーヤーとして活躍する人々である。世代や職種を超えて集まったとびラーが生み出す様々な活動によって、多くの人々のアートを介した体験がより深く、充実したものとなることを目指している。

<http://tohira-project.info/>



「夏休みの美術館」  
上野・谷中界隈の商店や工場を訪ね歩いて廃材を集め、それらを素材として創作するワークショップを実施した。



「スペシャル・マンデー・コース(学校向けプログラム)」  
展覧会の休室日を学校団体のために特別に開き、ゆったりとした環境で対話による鑑賞プログラムを行っている。



「Museum Start あいうえので活躍する“とびラー”」  
本事業は「とびらプロジェクト」と連動しており、とびラー（アート・コミュニケーター）が様々な場面で子供たちの伴走役を務める。



「ビビハドトカダブック」  
ビビハドトカダブックは、上野の9つの文化施設をつなぐ“合言葉”。上野公園のミュージアムにもっと行きたくなる日比野克彦教授オリジナルデザインの冒険アイテムを参加者全員に配付している。



「のびのびゆったりワークショップ」  
障がいのある子もない子も共に参加し、多様な価値観を認め合い、大人と子供が共に学び合うプログラム。



「放課後の美術館」  
週1回、美術館を子供たちの放課後の居場所に。連携施設へのフィールドワークや廃材を用いたフリーワークなどを行う。現在、「上野公園を舞台にした〇〇をつくる」をテーマに制作が進む。



## 第8回藝大アートプラザ大賞 3

### 2

#### Museum Start あいっえの (上野地区文化教育施設連携事業)

東京藝術大学と東京都美術館が推進役となり、上野動物園や東京国立博物館、国際子ども図書館を含めた九つの文化施設が共催連携し、上野公園に集まる文化施設の魅力を編み直すプロジェクトが平成二十五年からはじまった。『Museum Start あいっえの』は、子供も大人も対等に学び合える環境の整備を目指すラーニング・デザイン・プロジェクト。とびらプロジェクト」と連動し、さまざまなプログラムを実施している。

<http://museum-start.jp/>

### 3

#### 第8回藝大アートプラザ大賞

十一月二十七日から十二月十三日まで、藝大アートプラザにて「第八回 藝大アートプラザ大賞展」(作品テーマ「音(おと)」)を開催した。これは、学生の制作活動の成果を広く社会に発信するため二〇〇六年度から実施している学内アートコンペで、厳正な審査を経た入選作品を展示、販売するもの。八回目を迎えた今回は、

総勢四十七名(六十五点)の作品が会場の藝大アートプラザを飾った。

初日に行われた授賞式では、学長賞(藝大アートプラザ大賞)、準大賞、藝大BIO賞を受賞した六名が列席し、宮田亮平学長と三田村有純藝大アートプラザ所長から賞状と目録が手渡された。今回、学長賞(大賞)を受賞したのは大学院美術研究科修士課程絵画専攻(油画)に在籍する小林あずささんの作品「妙な綾なる」。

小林さんは、「今回大賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。今までにいくつかの公募展などで入選する機会がありましたが、私にとって受賞は初めての体験となります。今回のアートプラザ大賞の募集テーマは「音」でした。作品では音楽を聴いている際の感覚世界を描いています。外界の存在である音が内界に流入する様、外部の存在である音が内部に水のように注ぎ込み、満ちていく姿を描いています。作品のタイトルの「妙な綾なる」には意味と音の面からダブルミーニングをしています。『妙な綾なる』は音楽の美しい調べの意味と、英語のeternalの音とをかけています。『綾なる』は美しく彩ること、yearner(英)「切望する人」をかけています。今回の大賞を励みに、今後も制作に励みたいと思います。また作品を介して皆様の目に触れる機会があれば幸いです。ありがとうございました」と話していた。